

モンゴル国におけるPOCUSを用いた救急診療能力強化事業

- モンゴル国では近年主要死因に心血管疾患や外傷が多く、超音波検査(POCUS)の充実により救急医療の質の向上・救急医療従事者の能力強化が期待できる
- 日本では既にPOCUS研究会を中心に研修パッケージが作成・施行されている。POCUS研究会の代表者が中心となり、NCGM救命救急センターやJICAチーフアドバイザーと協力し、モンゴル救急医学会のメンバーによりオンライン版を考慮したPOCUSの研修パッケージ・ガイドラインの作成を行う。実際にPOCUSコースを行い、年度末までにモンゴル国でのPOCUS研修の継続性や地方開催を考慮したガイドラインの改訂を行う。
- 本事業を通して、モンゴル国内の救急診療に従事する医師の救急診療能力の向上が期待できる。地方へ向けてのオンライン開催を実現できれば、モンゴル国全体の救急医療の水準の向上が見込まれる。
(現在のコロナウイルス感染状況を鑑み、専門家は日本からのオンラインでの遠隔研修を行う。)

